

報 道 資 料

令和4年11月1日(火)

教職員課

小中人事係

係長 太田 圭悟

県立人事係

係長 門司 雅之

ダイヤル 0742-27-9844

(内線) 5241・5247

令和4年度奈良県公立学校優秀教職員表彰について

県内の市町村教育委員会教育長及び県立学校長から推薦のあった「奈良県公立学校優秀教職員表彰候補者」について、外部委員7名で構成する「奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会」での選考を経て、本年度下記のとおり10件の教職員を「奈良県公立学校優秀教職員」として決定し、教育長が表彰することとしました。

記

1 表彰の目的及び趣旨

この表彰は、教職員の意欲の高揚と、学校の活性化を図ることを目的として、職務に精励し、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員グループを対象として平成16年度から実施しています。また、県内の学校の活性化に資するため、表彰実践事例を県内の教育関係者に紹介するとともに広く公表しています。

令和2年度から、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員であって、さらに顕著な成果を上げることが見込まれる者を表彰する「若手教職員等奨励賞」を設けました。

本年度は、第19回目の表彰になります。

2 令和4年度表彰の概要

(1) 被表彰者数 …… 10件

(2) 被表彰者 ……

天理市立前栽小学校	歌房 芙未子
生駒市立あすか野小学校	大森 康貴
橿原市立金橋小学校	中尾 恭子
香芝市立三和小学校	高井 海彦
上牧町立上牧第二中学校	梅津 雅亮
奈良県立国際高等学校	本間 直樹
奈良県立高取国際高等学校	下井 哲也
奈良県立奈良西養護学校	佐竹 寛之
奈良県立大淀養護学校	支援教育部「実践ヒント交流会」
【若手教職員等奨励賞】	
奈良県立香芝高等学校	川下 優一

(3) 表彰式 …… なし(コロナウイルス感染症の状況等を踏まえて)

3 具体的な表彰実践事例（代表4例）

(1) 子ども自身が学習レリバンスを見出すための実践の開発とその成果についての小学校教諭の事例

学習にどのような意味や意義を感じるかを表す「学習レリバンス」を学習の基盤となる要素と考え、児童自らが学習の意味を肯定的に見出せれば、学習意欲の持続的な向上を図ることが期待できる。この仮説に基づいて令和3年度5年生児童（153名）を対象にリンクワークプロジェクトに取り組んだ。

1学期は「自分（今）を知る」、2学期は「将来を知る」、3学期は「今と将来をつなぐ」と各学期ごとに大単元を設定し、系統立てた年間計画で展開した。この取組において、同学年担当各教員への研修等も担いながら、リーダーとして活躍した。

(2) 学習指導等における特に顕著な成果についての中学校教諭の事例

生徒が、目的意識を持って学習に取り組み、キャリア理解をもとに自らの進路を切り拓くために、教員の授業力や観察力の向上、学校外部からの講演や進路情報の発信で生徒自身に考えさせ刺激を与える等を軸にした取組を行った。生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を育成し、その取組を正しく評価するため、自身の教科で例を示し研修を主催し、他教員の授業見学もしながらOJTを積極的に行い、学校全体の指導力を向上させた。また、Chromebookを場面に応じて使い分け、生徒の関心や発言の機会を高め、他者の意見を知り共有することを大切に取り組んだ。さらにキャリア理解をもとに、進路を切り拓くことができるように、生徒と保護者に向けて進路学習や講演会等を開催し、目的意識を持った学習につながるよう取り組んだ。

(3) 高等部 作業学習「農場班」での実践についての養護学校教諭の事例

障害の有無や年齢、経験にかかわらず誰もが主体的に取り組むやすい農法である「ユニバーサル農法」を授業に取り入れるにあたり、近畿大学農学部の教授と連携し、協働を進めた。

令和元年度から、郷土の伝統野菜である「大和マナ」の栽培や、御所市からの提供を受け、「大和芋」の栽培に取り組んだ。令和3年度には、近畿大学の学生も授業に加わり、腎臓病患者のための医療用野菜として低カリウム化した大和マナの栽培を行った。様々な障害があっても取り組むことができるよう、生徒が視覚的に分かりやすい教具を使用したり、作業工程を細分化して整理することで生徒の理解をより進めることができた。これらの取組は農業と福祉の連携を目指す「農福連携」の一つの形を提示することにつながった。

(4) 表現探究による学習の基盤となる資質・能力を兼ね備えた創造性豊かな人材の育成に関する高等学校教諭の事例（若手教職員等奨励賞）

言葉による表現を基本とし、プレゼンテーションや創作活動、探究的な学習を通して、言語能力や情報活用能力、コミュニケーション能力を身に付けた創造性豊かな人材を育成することを目的に、令和2年度に設置された「表現探究コース」で、カリキュラム開発と授業展開を行った。1学年では、取材をして新聞記事を書く活動等を通して、取材相手を理解しようとする他者理解や、言語能力、情報活用能力の育成を目指している。2学年では、創作活動やグループでの探究的な学習を中心に展開し、大衆に自らの考えや想いを伝える創造力や探究的な学びの基礎を身に付けることを目指している。3学年では、自らの進路と社会や学術の課題が重なる部分を研究テーマとして、情報やフィールドワークで得た知見をもとに探究的な学習を行っている。校外の様々な年代や職業の方と関わる中で、自分の考えを的確に伝える力が伸び、学校での授業における発表の様子も確実に成長している。また、これらの様子はメディアの注目を集め、数多くの実践が取り上げられている。